

人生100年時代の女性の健康とキャリア

女性の平均寿命は87.13歳(2024年)ですが、ひとりひとりの生き方や働き方、環境が異なる中で「平均」をベースに考えても意味はなく「私自身はどうか?」を考えて行動、準備することが重要です。

今回のシンポジウムでは、薬剤師であり「Healthy Aging Projects for Woman」の理事長である宮原富士子さんに100年時代の女性の健康について、講演をいただきます。ぜひ皆さんと一緒に人生100年時代を見据えた「女性の健康×キャリア」を考えましょう。

◆プログラム

PART① ご挨拶 女性たちの情報化研究会 代表 渡邊嘉子



PART② 講演

人生100年時代の女性の健康(仮)



宮原 富士子さん

株式会社ジェンダーメディカルリサーチ 代表取締役社長 /

特定非営利活動法人Healthy Aging Projects for Women (NPO法人HAP) 理事長 /

一般社団法人がん哲学外来 理事、事務局長

1981年東京薬科大学薬学部卒業後、外資系製薬会社に勤務、2000年退職。2001年女性の健康支援と栄養疫学研究(株)ジェンダーメディカルリサーチを設立する一方、薬局にも勤務し薬局長の役割も持つ。2013年より女性の健康支援のための特定非営利活動法人Healthy Aging Projects for Women (NPO法人HAP)理事長、浅草をはじめ全国で女性の健康講座を展開し現在に至る。2022年には、令和4年度母子保健家族計画事業功労者厚生労働大臣表彰受賞。

PART③ パネラーたちの「健康とキャリアに関するエピソード」を聞いてヒントを得よう



コーディネーター 藤田香織(女性たちの情報化研究会事務局)

1989年リクルートグループへ入社以来、出向、転籍、起業等、仕事中心の生活を送りながら、夫の両親の介護に携わる。個人差が益々大きくなる健康について戦略を持ちたいと今回のシンポジウムを企画した。



パネラー 磯上悦子さん

1986年富士通グループ会社入社。2009年女性初の部長職に着任。2022年3月に早期退職、2022年7月から(株)学研ココファン・ナースリー放課後キッズクラブ指導員。自身の病を抱えながら仕事、介護、趣味のバランスを確立中。



パネラー 朝木直美さん

就職→出産→転職→夫の米国転勤帯同で専業主婦→帰国後フリーで独立→再就職→離婚→独立と多期作な人生。ライターとして200人以上の女性の転職も取材。現在は「自分史を『大切な人への手紙』の形で残す」サービスの準備中。健康だと思いつつも加齢を感じながらキャリアを積んでいる。

PART④ まとめ(資料のご案内等)

開催日時: '25年 **12月6日** ±

時間: 13:00~14:30 参加費: 1,000円

オンライン(Zoomミーティング)開催

*お申込頂いた方に別途ご案内します

(欠席された方にはアーカイブ配信あり、データ資料つき)

参加申し込み方法 下記の方法でお申し込みください

●Peatix ▶ <https://peatix.com/eventあたり11>



お問い合わせ

●メール: yoshiko.w@human-c-labo.net ●お電話: 03-3545-8038(渡邊)

協力: 季刊オピニオン・プラス(記事取材掲載予定) 協賛: 株式会社ヒューマンコミュニケーション研究所

